

「研究テーマ」

新聞コラム・社説を利用した進路実現に向けての文章力を身につける実践

雲雀丘学園中学・高等学校 教諭 川口 隆行

I はじめに

雲雀丘学園中高等学校は、兵庫県宝塚市にある私立の中高等学校である。同法人の設置校として、2つの幼稚園、中高と同敷地内にある小学校がある。学園の基本理念として、初代理事長・鳥井信治郎の「親孝行なひとはどんなことでも立派にできます」に由来する「孝道」を基本とした人間教育を掲げている。また中高の校是は「高志」「自律」「努力」であり、高い志を持ち自らを律し、その達成に向けてたゆまぬ努力を続ける生徒達の育成をはかっている。

本校は平成24年度にNIE実践校指定を受けた。実践校指定をいただくにあたっては、実践者代表の私が以前に勤務していた大阪の高校が実践校の指定を受けており、そこでの取り組みが非常に有意義なものだったと紹介したことから、教科で本校もNIE実践校として取り組んでいきたいという希望があり、申請させていただくこととなった。

II 学校としての取り組み

1) 各学年での取り組み

高3 新聞コラムの書き写し〔毎週朝学習〕

(実践事例として後の項で詳しく説明)

高1 新聞記事ノート〔休暇中の課題〕

夏季休暇 8本 冬季・春期休暇 4本

ノートに新聞記事を切り抜き、記事についてコメントを書く。HRでノートをクラス内で交換し、相互評価をさせる。

中3 新聞コラムプリント〔毎週朝学習〕

新聞朝刊コラムを抜粋したプリントを配布し、記事の要約・語句調べ・意見をそれぞれ書かせて提出させる。

中1 新聞記事を読む〔毎週朝学習〕

新聞記事を抜粋したプリントを配布、記事の内容を読ませて感想を書かせる。

2) 教科としての取り組み

高3 現代社会演習 5分間スピーチ

新聞から自由に記事を選択させ、切り抜き意見を書いてくる。印刷して生徒に配布し、授業の始め5分間でスピーチをさせる。聞き役の生徒達は感想を書き、回収した用紙をチェックしたのち発表生徒に渡す。

中1・2 歴史 歴史新聞作成

歴史の授業の夏季休暇中の課題として、各生徒が興味のある人物や事件に関する歴史新聞を作成し、画用紙に書いて提出する。各クラスの優秀な作品については、年度末に社会科で実施している「社会科発表会」の場を利用して、OHPを使い発表をおこなう。

(昨年度の発表例「近所の歴史 伊佐具神社と赤松円心の墓」、「三国志新聞」、「鶴姫伝説」、「田中正造」、「セーラー服 HISTORY新聞」)

※ 以上のような取り組みに利用するように、

平成 24 年の 2 学期から、新聞提供事業を利用した新聞の利用をおこなっている。

(神戸・朝日・読売・毎日・産経・日経)新聞は、社会科準備室に置いて利用・閲覧できるようにしているが、次年度は生徒が集まりやすい場所に設置し、閲覧しやすい環境をつくりたい。



【社会科発表会での歴史新聞発表】

3) 新聞記者の派遣講座

中 1 ・一貫コース「探究」の授業内

日時：平成 24 年 9 月 29 日 (土) 4 限

場所：高校校舎 1 階・60 ホール

講師：読売新聞阪神支局 石原敦之 記者

対象：中学 1 年 D・E 組 生徒全員

教材：読売新聞 2011 年 12 月 16 日 朝刊

「時代遅れでも人間味

～リヤカーで茶行商半世紀」など

石原記者の書いた記事 3 本を題材に、

取材～リサーチの方法について

III 実践事例

新聞コラム書き写しプリント

対象：高校 3 年生・各クラス

教科・科目：高等学校の総合学習、

キャリア教育・進路指導

第 1 段階 実践者が任意に選んだ新聞

コラム(「正平調」など)を書き写す

第 2 段階 新聞コラムを読んで考えた感想を書く

第 3 段階 任意の社説記事を 10 分間で 100 字以内にまとめる

実施時間：毎週水曜日の朝礼前～朝礼時間

目的：新聞記者の書いたプロの文章から、入学試験に向けた文章力を学ぶ。

過程：大学入試の小論文を代表とする記述形式の回答にそなえ

1) 文章を単純に書き写す

2) 自らの考えをまとめる

3) 文章を要約する

という三段階で記述力を育成する。

学習活動：

その週(できればその日)の新聞コラムを転載、下にマス目を用意したプリントを配布する。また、裏面には感想を書く欄を用意する。

裏面下半分には社説の記事を転載し、内容を 100 字以内で要約する欄をつくる。

① 新聞コラムの書き写し

新聞コラムの文章を一字一句そのまま書き写す。

② 新聞コラムの感想

その日書き写した新聞コラムの感想を裏面の感想欄に自由に記述する。

③ 社説の内容要約

社説記事を100字以内で要約する。

以上の内容を毎週B4・1枚のプリントにまとめて実施する。

①②については朝礼前に教卓の上においてあるプリントを各自が教室に入った際に取り取りやり始め、③については朝礼開始とともに実践者(学級担任)が計時したうえで取り組む。

出来上がったプリントは回収し、コラム書き写しは確認・捺印、社説書き写しはコメントを書いた上で終礼時に各人にプリントを返却する際に、優秀な4~5枚をまとめたプリントを同時に配布する。

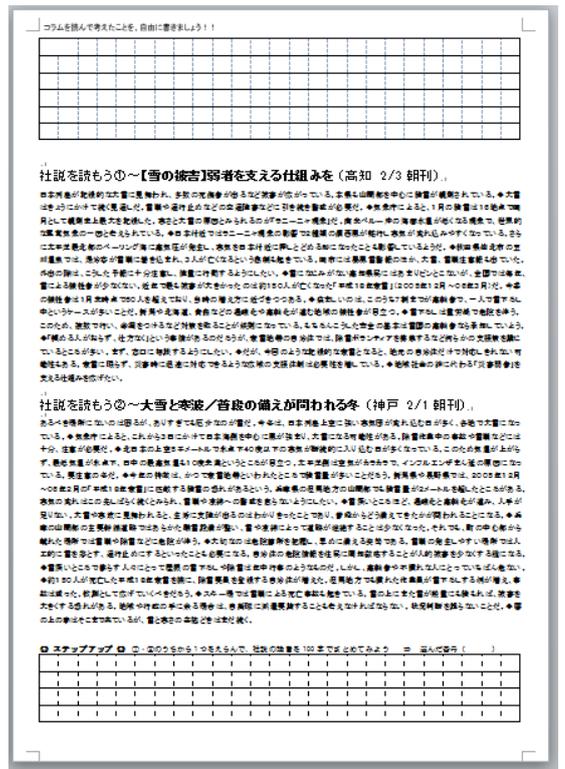
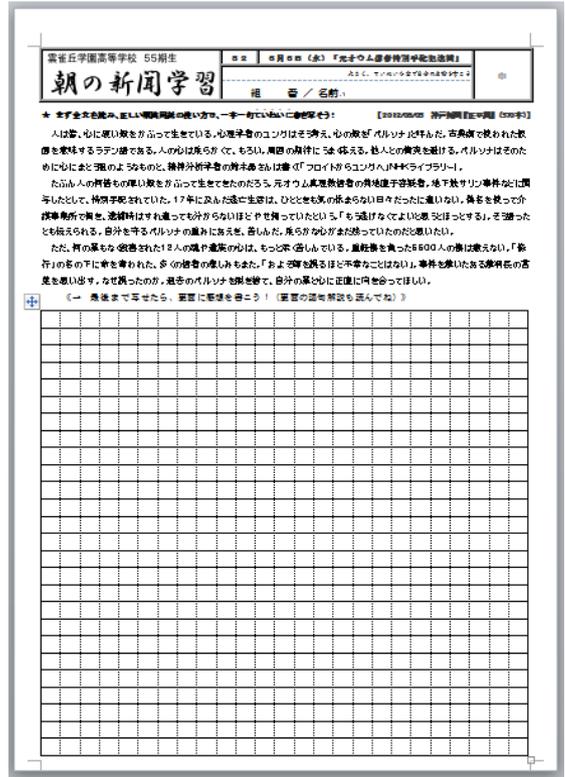
留意点:

工夫として書き写し・要約は横書きで書かせた。

コラム・社説記事の選定については、なるべく内容に偏りがでないように、政治・経済・社会・スポーツ・文化・科学など全般が網羅されるよう留意した。また、新聞社についても兵庫県6紙と時には他県の地方新聞、スポーツ紙のコラムを題材にした回もあった。

社説は回によっては、同じ題材の記事を論調の異なる2つの新聞社のものを転載し、一方を選択させるなどの工夫をし

た。



【新聞学習プリント

上: 表面・新聞コラム書き写し

下: 裏面・感想欄/社説要約】

生徒の反応:

書き写しは非常に単調な作業であり、

生徒もこちらが意義や取り組み方を丁寧に指導しなければ、おざなりになりがちである。また、社説の要約についても、実践当初は何から手を付けて良いのかわからないといった風であったが、他の生徒のものなどを見てコツを掴んできた後は、スピードも内容もそして取り組む意欲も格段に良くなったのが見て取れた。

実践の成果と課題：

2年前から継続して取り組んできたこともあり、新聞の書き写しについてはスピードや文字の丁寧さなど、非常にスムーズにできていた。感想については、それぞれの生徒の興味・関心によってしっかり書けている回とそうでない回が顕著に分かれる場合が多かった。

今年度から実施した社説の要約については、最初は10分間という時間的制約があり欄を最後まで埋めきれない場合や、100字という文字数の制約によりまとめきれない場合が多くみられたが、徐々に改善された。特に、他のクラスメイトの良い要約の例をまとめたプリントを配布し始めてからは、それが非常に参考になったようで達成率が飛躍的に向上した。

実践の成果がどれだけ実際の入試の結果に結びついたかはわからないが、後の小論文などの指導は例年に比べスムーズだった。

そのまま書き写すということが、生徒の記述力を向上させる基礎力になるという手応えは本校での実践でも改めて感じられた。

また、新しく取り組んだ社説の要約は生徒たちの文章の要旨をつかみとり、取捨選択しまとめるという能力が、実践当初の段階では非常に乏しいということに気付かされたが、毎週の取り組み、そしてクラスメイトの良い内容のものをまとめコメントしたプリントを配布したことをきっかけに、時間内に100字要約が書けるようになり、内容の水準も高くなった。

本年度の実践は、実践者である私が高3の担任をしており、授業も受験に向けての内容が殆どで、1年次から取り組んできた朝学習での新聞コラム書き写しとその内容にプラスアルファをした社説要約しか取り組みができなかった。次年度は教科・科目の中で新しい取り組みができるように努力したい。また、NIEを通じて新聞が生徒たちにとってより身近なものになるように、提供していただく新聞の閲覧スペースの工夫などに取り組んでいきたいと思う。

IV おわりに

そもそもこの取り組みは、前任校での実践内容を踏襲したものであったが、文章を書くプロフェッショナルである新聞記者の記事を